

令和7年度
全国学力・学習状況調査
～調査結果と指導改善のポイント～
令和7年9月 釧路市教育委員会

4月17日(木)に実施された「令和7年度全国学力・学習状況調査」について、文部科学省が7月31日(木)に結果を公表した。

この資料は、本調査の釧路市における市立小・中学校及び義務教育学校の児童生徒の学力や学習状況を示すほか、調査結果から読み取ることのできる課題等を分析し、各教科における学習指導の改善に向けたポイント等を示したものである。

《調査の概要》

(1) 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象とする児童生徒

国・公・私立学校の以下の学年の原則として全児童生徒が対象

ア 小学校調査 小学校第6学年、義務教育学校第6学年

イ 中学校調査 中学校第3学年、義務教育学校第9学年

(3) 調査事項

ア 児童生徒に対する調査

(ア) 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

(イ) 質問調査(児童生徒に対する学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)

イ 学校質問調査

(ア) 学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(4) 調査問題の内容及び結果

教科に関する調査問題は、国際的な学力調査の考え方や調査結果及び課題等も考慮しつつ、学習指導要領に示された各教科の目標及び内容等に基づいて作成されている。なお、従来の「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」に区分するといった整理は見直され、平成31年度より知識・活用を一体的に問う調査問題となっている。

国からは、調査結果について、学力面において細かい桁における微小な差異は、実質的な違いを示すものではないとして、平均正答率の小数点以下を四捨五入した整数値で結果が提供されているが、本資料においては、釧路市の児童生徒の学力や学習状況を過去の結果と継続的に比較するため、提供されたデータをもとに独自に算出した小数値で釧路市の状況を示している。

《集計対象 学校数・児童生徒数》

	小学校調査		中学校調査	
	集計対象学校数	集計対象児童数	集計対象学校数	集計対象児童数
全国(公立)	18,269校	936,576人	9,272校	871,097人
釧路市立	26校	891人	15校	930人

※集計対象児童生徒数・学校数は、4月17日に調査を実施した数である。

集計対象児童生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

資料①

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

- 小学校では、国語と理科において全国平均を上回っている。算数においては全道平均を上回っており、全国平均に肉薄している。
- 中学校では、3教科とも全国平均を下回るものの、国語においては、全道平均及び全国平均に肉薄している。

平均正答率（中学校理科は平均IRTスコア）

単位（％）

理科については平均IRTスコアのため単位なし

小学校		国語	算数	理科
全国		66.8	58.0	57.1
全道		65	55	56
釧路市立		70 [70.2]	57 [56.8]	59 [58.8]
全道比較	R7	+5.2	+1.8	+2.8
		+3.4	-1.2	+1.7
	R6	+4.1	-0.4	-
	R5	+0.6	-2.4	-
	R4	-0.7	-1.7	+0.3
	R3	+1.1	-2.4	-
	R2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施		
R1	-4.4	-5.7	-	

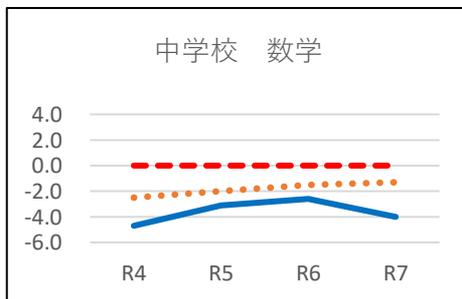
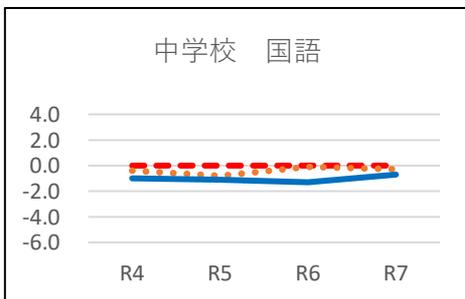
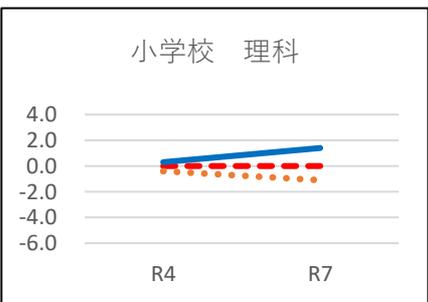
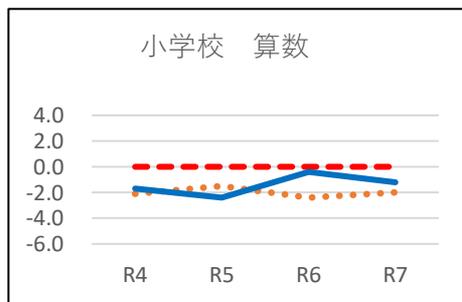
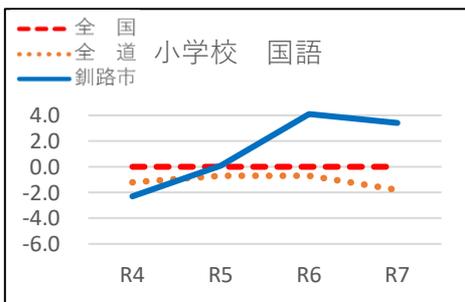
中学校		国語	数学	理科
全国		54.3	48.3	503
全道		54	47	505
釧路市立		54 [53.6]	44 [44.3]	486
全道比較	R7	-0.4	-2.7	-19
		-0.7	-4.0	-17
	R6	-1.3	-2.6	-
	R5	-1.1	-3.1	-
	R4	-1.0	-4.7	-2.7
	R3	-2.1	-3.9	-
	R2	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により未実施		
R1	-4.4	-5.7	-	

※国は、北海道及び市の平均正答率を整数値で提供。
 []内の小数値は、北海道教育委員会及び釧路市教育委員会が国から提供されたデータをもとに、それぞれ独自に算出した数値である。なお、全国及び全道比較については、独自に算出した数値を比較したものである。
 ※中学校理科については、平均正答率ではなく、平均IRTスコアを記載。

(以下参考数値)					
		基礎	活用	基礎	活用
全国との比較	H30	+0.3	-1.1	-0.9	-3.4
	H29	-1.1	-1.8	-1.2	-4.6
	H28	+0.2	-1.3	-1.5	-2.8
	H27	-1.5	-2.3	-2.2	-3.4
	H26	+0.7	-4.5	-1.3	-5.9
	H25	-3.4	-4.0	-1.3	-5.7
	H24	-5.0	-4.5	-3.7	-4.8
	H22	-5.0	-7.9	-9.6	-6.3

(以下参考数値)					
		基礎	活用	基礎	活用
全国との比較	H30	-0.4	-2.3	-4.2	-4.8
	H29	-2.4	-2.5	-2.5	-3.9
	H28	-1.7	-5.2	-2.1	-3.3
	H27	-1.6	-2.1	-2.5	-3.6
	H26	+0.3	-3.3	-1.6	-3.7
	H25	-2.2	-5.2	-4.5	-6.8
	H24	-2.2	-1.0	-4.3	-6.2
	H22	-1.6	-5.7	-5.7	-7.0

全国平均との比較推移

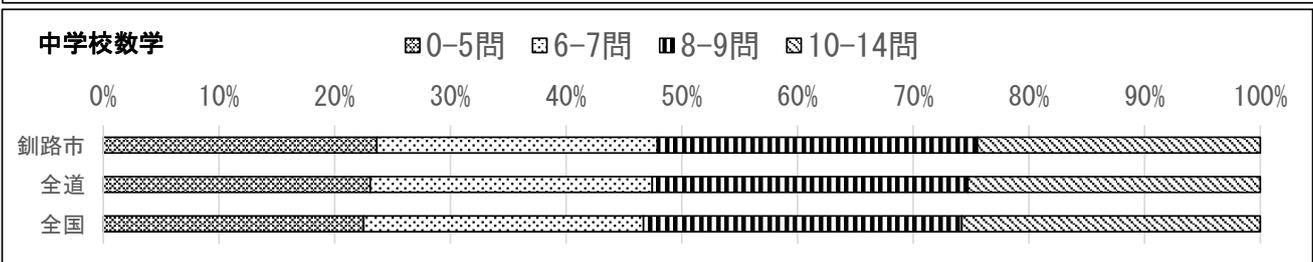
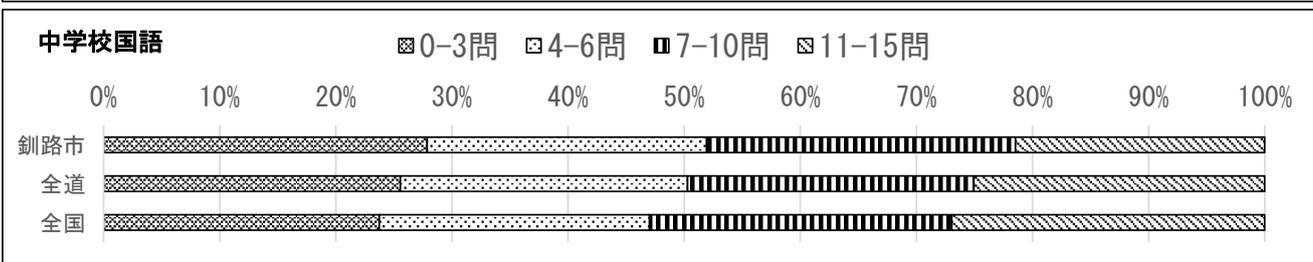
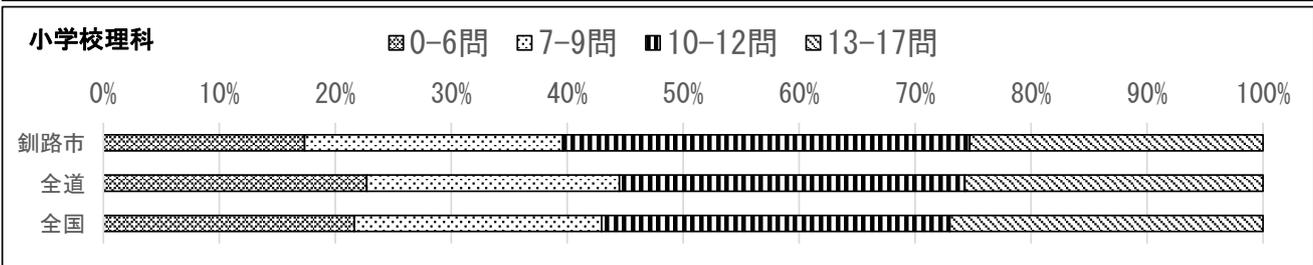
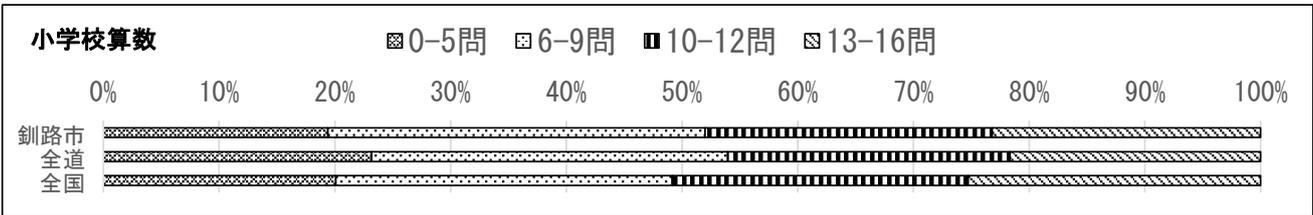
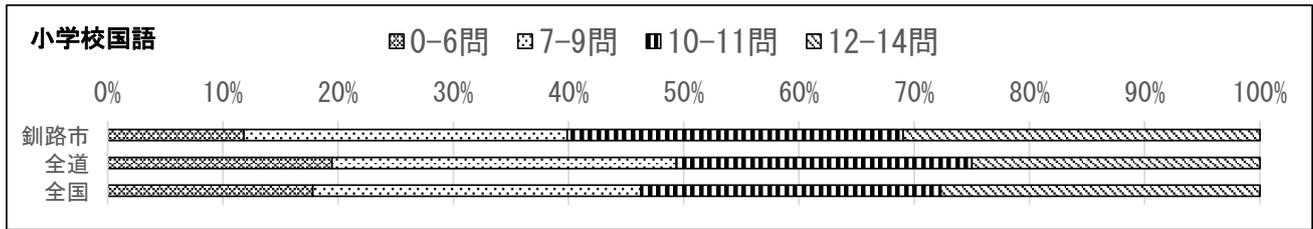


資料②

【正答数ごとの層分布・IRTバンド分布(中学校理科のみ)比較】

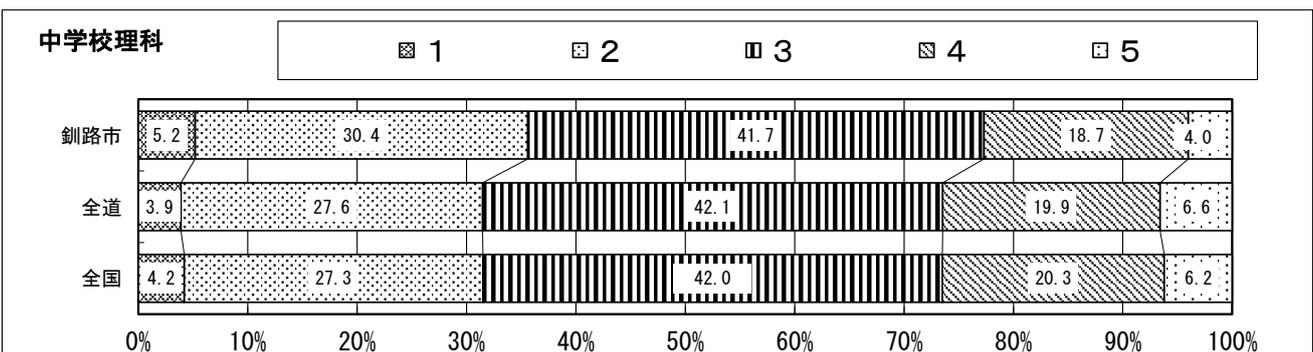
正答数の層分布

・正答数ごとの層分布は、あらかじめ定められた正答数の範囲（例えば「0-6問」「7-9問」など）に、どれくらいの割合の児童生徒が分布しているかを示したもの。



IRTバンド分布

・IRTスコアは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンから学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。
 ・IRTバンドは、IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものであり、3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドなる。



令和7年度 全国学力・学習状況調査
全国平均との比較達成状況一覧

小学校及び義務教育学校前期課程	26校	$P < -5$	$-5 \leq P < -3$	$-3 \leq P < 0$	$0 \leq P < 3$	$3 \leq P < 5$	$5 \leq P$
	国語	3校 (3校)	0校 (1校)	4校 (5校)	6校 (1校)	3校 (7校)	10校 (9校)
算数	7校 (7校)	2校 (2校)	7校 (5校)	3校 (7校)	1校 (0校)	6校 (5校)	
理科	4校 (5校)	1校 (3校)	3校 (6校)	6校 (1校)	3校 (5校)	9校 (6校)	

* ()の校数は、国語、算数は令和6年度、理科は令和4年度の全国平均との比較

中学校及び義務教育学校後期課程	15校	$P < -5$	$-5 \leq P < -3$	$-3 \leq P < 0$	$0 \leq P < 3$	$3 \leq P < 5$	$5 \leq P$
	国語	2校 (2校)	5校 (2校)	2校 (5校)	2校 (2校)	2校 (2校)	2校 (2校)
数学	7校 (4校)	1校 (1校)	3校 (5校)	0校 (0校)	1校 (3校)	3校 (2校)	
理科							

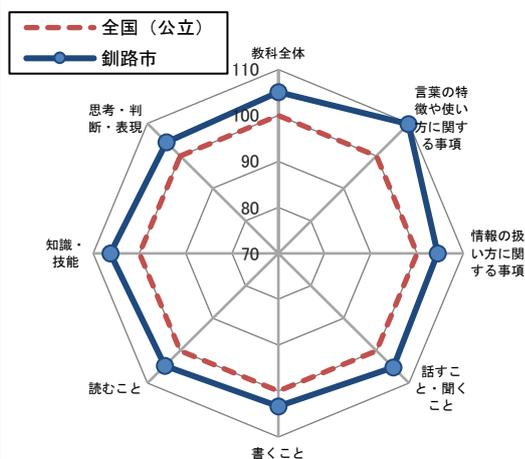
* ()の校数は、国語、数学は令和6年度、理科はIRTスコアのため、記載していません

Ⅱ 各教科の状況と指導改善のポイント

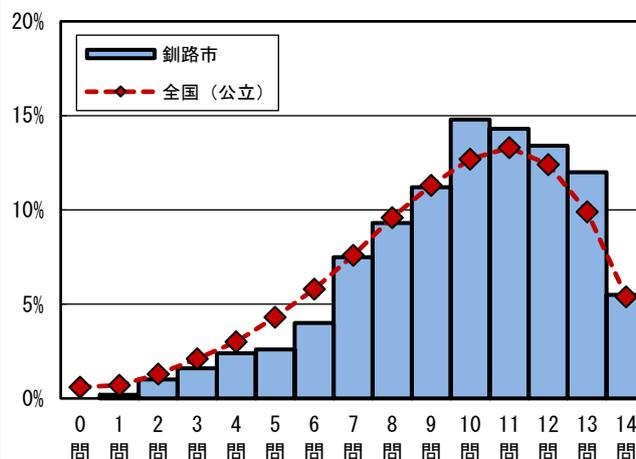
1 小学校国語

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	889	9.8 / 14	70 [70.2]	11.0	2.7
全国（公立）	936,137	9.4 / 14	66.8	10.0	3.0

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「【インタビューの様子の一部】で小森さんが傍線部アのように発言した目的として適切なものを選択する」設問（第5・6学年「話すこと・聞くこと」の内容）は、正答率80.4%（全国平均71.8%）である。〔問題番号1三〕
- ◇ 「【ちらし】の下線部アを、漢字を使って書き直す」設問（第5・6学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容）は、正答率87.9%（全国平均81.6%）である。〔問題番号2四〕
- ◇ 「【木村さんのメモ】の空欄アに入る適切な言葉を【資料2】の中から書き抜く」設問（第1・2学年「読むこと」の内容）は、正答率82.7%（全国平均81.6%）である。〔問題番号3二〕
- ◆ 「【ちらし】の文章の構成の工夫を説明したものとして適切なものを選択する」（第3・4学年「書くこと」の内容）は、正答率64.9%（全国平均65.5%）である。〔問題番号2一〕
- ◆ 「【資料3】を読み、【木村さんのメモ】の空欄イに当てはまる内容として適切なものを選択する」設問（第5・6学年「読むこと」の内容）は、正答率49.9%（全国平均51.3%）である。〔問題番号3二〕

【今後の指導について】

○ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくる指導の充実

- ・ 文章を書く際に、まずはそれぞれの児童が「何のためにその文章を書きたいのか」という目的を明確にもち、その目的を達成するために、「何を書きたいのか」を整理し、書く内容の中心を決めることが大切です。その上で、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして文章の構成を考える場面を設定しましょう。

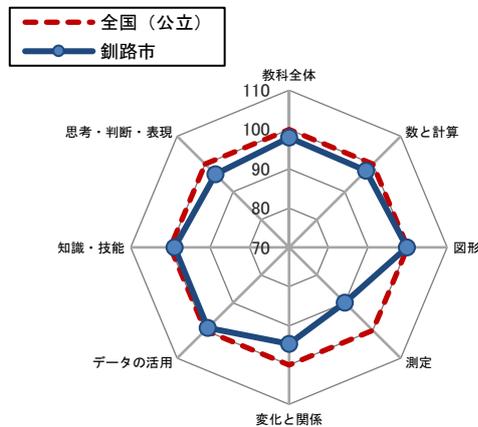
○ 文章全体の構成を捉えて要旨を把握する指導の充実

- ・ 要旨を把握するためには、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、文章全体の構成を捉えることが大切です。書き手がどのような事実を理由や事例として挙げているかを書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめるなどして、内容の中心となる事柄などを捉えたり、文章の各部分だけを取り上げるのではなく、全体を通してどのように構成されているのかを正確に捉えたりする場面を設定しましょう。

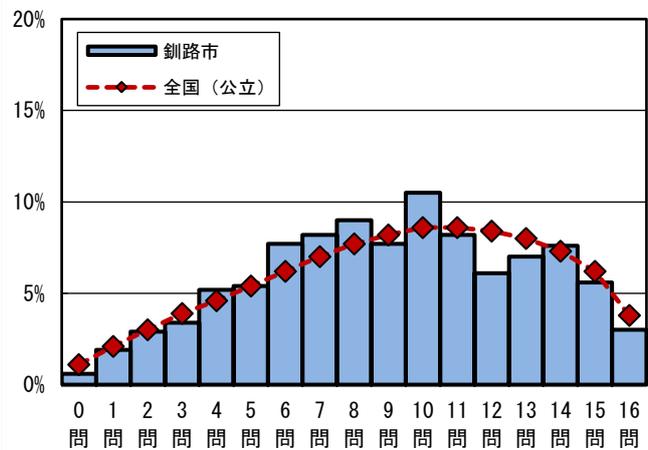
2 小学校算数

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	891	9.1 / 16	57 [56.8]	9.0	3.9
全国（公立）	936,399	9.3 / 16	58.0	10.0	4.0

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「 $1/2 + 1/3$ を計算する」設問（第5学年「A数と計算」の内容）は、正答率82.6%（全国平均81.3%）である。[問題番号3（4）]
- ◇ 「角をつくる二つの辺をそれぞれのばした図形の角の大きさについてわかることを選ぶ」設問（第4学年「B図形」の内容）は、正答率80.1%（全国平均79.3%）である。[問題番号2（3）]
- ◆ 「 $3/4 + 2/3$ について、共通する単位分数と、 $3/4$ と $2/3$ が、共通する単位分数の幾つ分になるかを書く」設問（第5学年「A数と計算」の内容）は、正答率23.2%（全国平均23.0%）である。[問題番号3（2）]
- ◆ 「都道府県Aのブロッコリーの出荷量が増えたかどうかを調べるために、適切なグラフを選び、出荷量の増減を判断し、そのわけを書く」設問（第3学年、第5学年「Dデータの活用」の内容）は、正答率31.6%（全国平均31.0%）である。[問題番号1（2）]
- ◆ 「数直線上に示された数を分数で書く」設問（第3学年「A数と計算の内容」）は、正答率34.6%（全国平均35.0%）である。[問題番号3（3）]

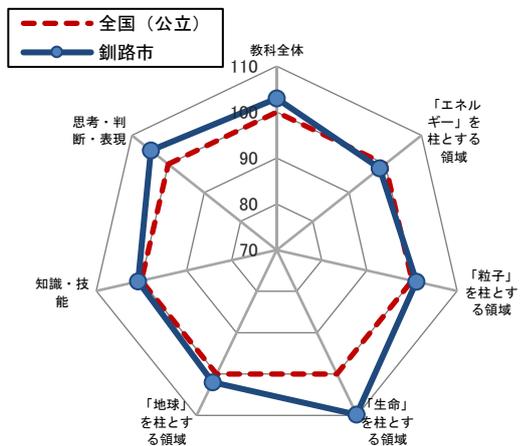
【今後の指導について】

- 通分することによって単位分数の個数に着目し、既習の整数の加法に帰着できるようにする指導の充実
 - ・形式的に通分をして計算するのではなく、なぜ通分が必要なのかを理解させることが重要です。分母が違う分数は、「そのままではたし算ができない」という目的意識のもと、「単位分数」に着目し、それぞれの分数がその単位分数の「いくつ分」になるかを考え、既習の整数の加法に帰着できるように気付くことができるようにする学習活動を工夫しましょう。
- 統計的な問題解決の過程を意識し、目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにする指導の充実
 - ・解決したい問題を明確にし、データの特徴や各グラフの特性を結び付けて適切なグラフを選択し、その判断の根拠を論理的に考察して説明する力を育むことが大切です。そのためには、目的に応じてそのグラフを選んだ根拠を説明し伝え合う活動など、一連の問題解決の過程として体験させる学習活動を工夫しましょう。
- 数直線を活用し、分数を一つの数として捉えさせ、小数との関係や大きさの等しい分数を視覚的に関連付けながら理解を深める指導の充実
 - ・数直線を活用し、分数を整数や小数と連続した一つの数として捉え、その大きさや関係性を実感させることが大切です。そのためには、小数と分数を同一の数直線上に並べて、その関係を視覚的に確認させたり、大きさの等しい分数が同じ位置に来ることを具体物を使って確かめさせたりする学習活動を工夫しましょう。

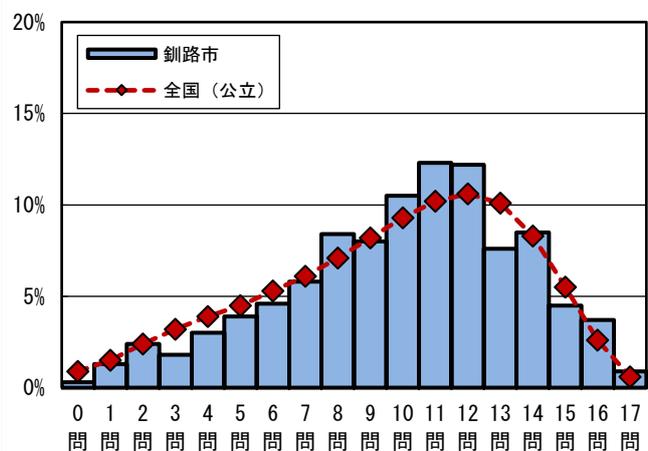
3 小学校理科

	児童数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
釧路市	891	10.0 / 17	59 [58.8]	10.0	3.6
全国（公立）	936,576	9.7 / 17	57.1	10.0	3.8

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「ベルをたたく装置の電磁石について、電流がつくる磁力を強めるため、コイルの巻数の変え方を書く」設問（第5学年「『エネルギー』を柱とする領域」の内容）は、正答率80.6%（全国平均78.0%）である。〔問題番号2（3）〕
- ◇ 「赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込む時間の違いを調べる実験の条件についてコップAの土の量と水の量から、コップBの条件を書く」設問（第4学年「『地球』を柱とする領域」の内容）は、正答率80.2%（全国平均79.5%）である。〔問題番号1（1）〕
- ◆ 「電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ」設問（第3学年「『粒子』『エネルギー』を柱とする領域」の内容）は、正答率11.0%（全国平均10.6%）である。〔問題番号2（1）〕
- ◆ 「レタスの種子の発芽の結果から、てるみさんの気付きを基に、見いだした問題について書く」設問（第5学年「『生命』を柱とする領域」の内容）は、正答率38.7%（全国平均29.9%）である。〔問題番号3（4）〕
- ◆ 「電気を通す物と通さない物でできた人形について、人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、ベルが鳴る回路を選ぶ」設問（第3学年「『エネルギー』を柱とする領域」の内容）は、正答率43.1%（全国平均42.9%）である。〔問題番号2（2）〕
- ◆ 「乾電池2個のつなぎ方について、直列につなぎ、電磁石を強くできるものを選ぶ」設問（第4学年「『エネルギー』を柱とする領域」の内容）は、正答率49.4%（全国平均55.1%）である。〔問題番号2（4）〕

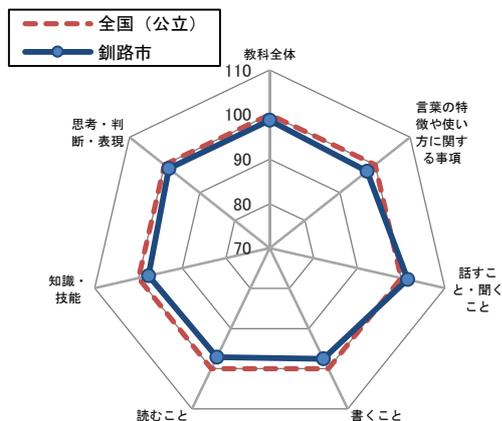
【今後の指導について】

- 自然の性質や規則性を適用したものづくりについて、学習したことを活用したり、解決の方法を発想したりしながら、問題を解決する学習活動の工夫
 - ・ 自然の事物・現象と知識を関係付けたり、知識を相互に関連付けたりして、理解を深めることの大切さについて意識した学習活動を設定しましょう。
 - ・ 設定した目的を達成できるよう、自然の性質や規則性を適用したものづくりを行うことの重要性について意識した学習活動を設定しましょう。
 - ・ ものづくりでできた装置を言葉や図に表現したり、言葉や図から装置を再構成したりするなどして、理解を深めることの重要性について意識した学習活動を設定しましょう。
- 自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を基に問題を見だし、表現する学習活動の工夫
 - ・ 複数の自然の事物・現象を比較し、差異点や共通点を捉え、新たな問題を見いだしていくことの重要性について意識した学習活動を設定しましょう。

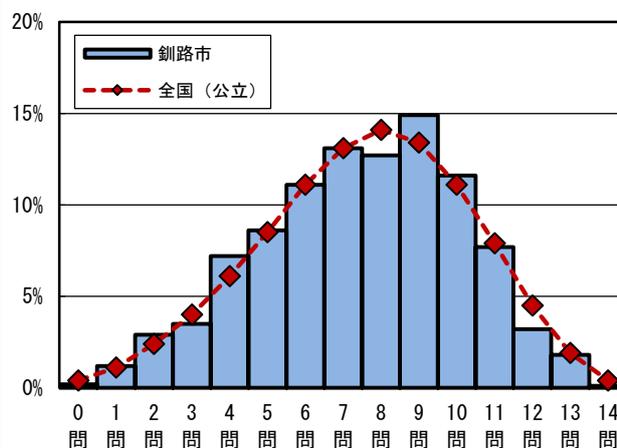
3 中学校国語

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（%）	中央値	標準偏差
釧路市	930	7.5 / 14	54 [53.6]	8.0	2.7
全国（公立）	870,560	7.6 / 14	54.3	8.0	2.7

【標準スコアによるカテゴリー間の比較】



【正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）】



【設問別正答率の概要】（◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問）

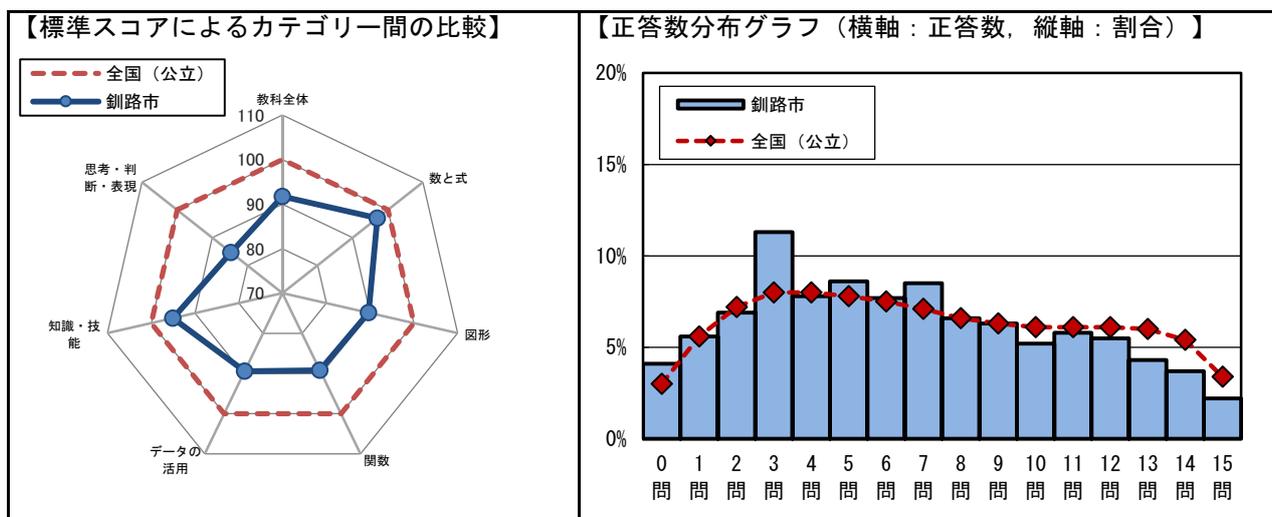
- ◇ 「「兄」と「弟」が、物語の中でどのような性格の人物として描かれているかを書く」設問（第2学年「読むこと」の内容）は、正答率89.5%（全国平均89.9%）である。[問題番号3二]
- ◇ 「「話の順序を入れ替えたほうがよい」という助言の意図を説明したものとして適切なものを選択する」設問（第2学年「話すこと・聞くこと」の内容）は、正答率73.8%（全国平均73.4%）である。[問題番号2三]
- ◆ 「変換した漢字として適切なものを選択する（かいしん）」設問（第2学年「言葉の特徴や使い方に関する事項」の内容）は正答率34.6%（全国平均35.2%）である。[問題番号1一]
- ◆ 「「一 榎木の実」に書かれている場面が、「二 釣の話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く」設問（第1学年「読むこと」の内容）は、正答率13.8%（全国平均17.1%）である。[問題番号3四]
- ◆ 「手紙の下書きを見直し、修正した方がよい部分を見つけて修正し、修正した方がよいと考えた理由を書く」設問（第1学年「書くこと」の内容）は、正答率27.5%（全国平均30.1%）である。[問題番号4二]

【今後の指導について】

- 文脈に即して意味に注意しながら漢字を正しく使うようにする指導の充実
 - ・ 小学校で習う1,026字の漢字について、中学校修了までに文章の中で正しく使えるように指導することが重要です。指導の際は、漢字の字体や形、音読み・訓読み、意味、用法などの知識を習得させ、文脈に応じて正しく使えるようにすることが大切です。また、各学年で学ぶ語彙と関連付け、音訓や同音異義語の意味の違いにも注意するなどして指導しましょう。
- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える指導の充実
 - ・ 文章を推敲する際は、読者の視点に立ち、伝えたいことが明確になるように指導することが重要です。具体的には、語句の用法や叙述の仕方を確認し、文章を整えます。叙述の仕方を確認する際には、文や段落の長さ、役割、順序、語順が適切かを見ます。この指導は、第1学年で学ぶ「指示語や接続語の役割」や、第2学年で学ぶ「敬語の働き」といった知識・技能と関連付けましょう。
- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考える指導の充実
 - ・ 文学的な文章の指導では、作品の場面構成や登場人物の心情の変化を追うことで、文章全体の構成と展開を把握させることが重要です。さらに、なぜそのような構成や展開になっているのか、それがどのような効果を生んでいるのかを生徒自身が考え、意味付けできるよう指導しましょう。

4 中学校数学

	生徒数（人）	平均正答数（問）	平均正答率（％）	中央値	標準偏差
釧路市	927	6.6 / 15	44 [44.3]	6.0	4.0
全国（公立）	871,097	7.2 / 15	48.3	7.0	4.2



【設問別正答率の概要】 (◇正答率が高い設問 ◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「1 から 9 までの数の中から素数を全て選ぶ」設問（第 1 学年「A 数と式」の内容）は、正答率 43.1%（全国平均 31.8%）である。[問題番号 1]
- ◇ 「△ABC において、∠A の大きさが 50° のときの頂点 A における外角の大きさを求める」設問（第 2 学年「B 図形」の内容）は、正答率 58.6%（全国平均 58.1%）である。[問題番号 3]
- ◆ 「一次関数 $y = 6x + 5$ について、 x の増加量が 2 のときの y の増加量を求める」設問（第 2 学年「C 関数」の内容）は、正答率 27.0%（全国平均 34.7%）である。[問題番号 4]
- ◆ 「連続する二つの 3 の倍数の和が 9 の倍数になるとは限らないことの説明を完成するために、予想が成り立たない例をあげ、その和を求める」設問（第 2 学年「A 数と式」の内容）は、正答率 57.8%（全国平均 62.8%）である。また、無解答率は、6.4%（全国平均 4.6%）である。[問題番号 6（1）]
- ◆ 「平行四辺形 ABCD の辺 CB, AD を延長した直線上に $BE = DF$ となる点 E, F を取っても、四角形 AECF は平行四辺形となることの証明を完成する」設問（第 2 学年「B 図形」の内容）は、正答率 30.0%（全国平均 36.3%）である。また、無解答率は、9.4%（全国平均 7.2%）である。[問題番号 9（2）]

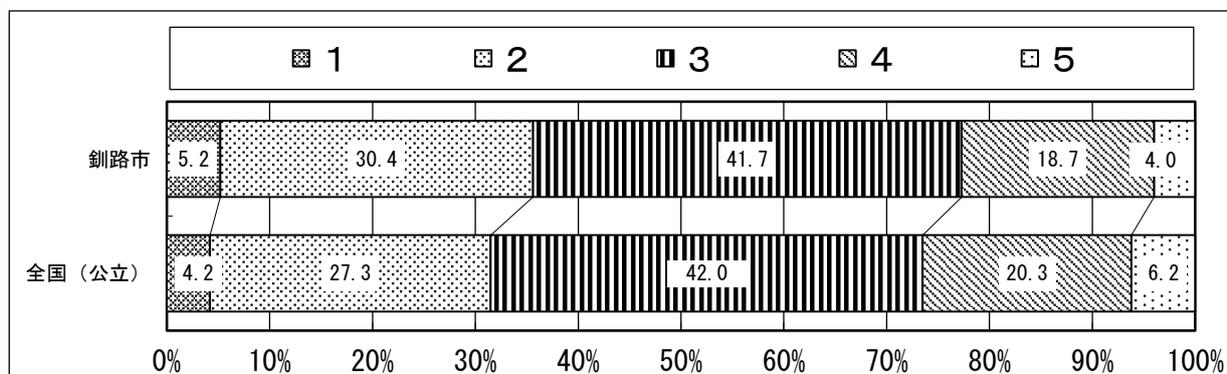
【今後の指導について】

- 一次関数における x の増加量に対する y の増加量を求めることができるようにする指導の充実
 - ・ 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるように指導しましょう。
- 命題や事柄が常に成り立つとは限らないことを反例をあげて説明できるようにする指導の充実
 - ・ 命題や事柄が常に成り立つとは限らないことを示すには、反例を一つあげて、それを根拠として説明できるように指導しましょう。その際、誤った説明を取り上げることなどを通して、反例は命題の仮定を満たしているが、結論を満たしていない例であることを理解できるように指導しましょう。
- 元の証明を評価・改善することを通して、条件を変えた場合の証明ができるようにする指導の充実
 - ・ 証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見だし、元の証明を評価・改善することを通して、条件を変えた場合の証明ができるように指導しましょう。

6 中学校理科

	生徒数（人）	平均IRTスコア	標準偏差
釧路市	945	486	117.1
全国（公立）	864,634	503	124.0

【IRTバンド分布比較】



※IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。3を基準のバンドとし、5が最も高いバンドとなります。

【設問別正答率の概要】(◇正答率が高い設問◆正答率が低い等課題がみられる設問)

- ◇ 「加熱を伴う実験において、火傷をしたときの適切な応急処置を選択する」設問（「粒子」を柱とする領域の内容）は、正答率96.0%（全国平均93.0%）である。[問題番号5（1）]
- ◇ 「「Webページの情報だけを信用して考察してよいか」について判断し、その理由として適切なものをすべて選択する」設問（「エネルギー」を柱とする領域の内容）は、正答率93.9%（全国平均94.6%）である。[問題番号2（2）]
- ◆ 「【考察】をより確かなものにするために必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する」設問（「エネルギー」を柱とする領域の内容）は、正答率11.9%（全国平均14.0%）である。[問題番号2（1）]
- ◆ 「牧野富太郎の「サクユリ」のスケッチから、サクユリの【茎の横断面】、【根】として適切なものを判断し、選択する」設問（「生命」を柱とする領域の内容）は、正答率19.4%（全国平均41.9%）である。[問題番号6（2）]
- ◆ 「実験の動画と実験結果の図から、どのような化学変化が起きているか判断し、原子や分子のモデルを移動させることで、その化学変化をモデルで表す」設問（「粒子」を柱とする領域の内容）は、正答率32.4%（全国平均35.6%）である。[問題番号5（2）]

【今後の指導について】

○ 考察の妥当性を高めるために、科学的な探究の見通しをもたせる指導の充実

- ・ 科学的な探究の見通しをもつためには、すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループなどで「観察、実験の結果から何が分かればよいのか」について、確認して共有することが大切です。その際には、変える条件に着目した実験を計画し、予想される実験の結果を適切に説明するなどの場面において、「実験1と比較して・・・」など、比較して関係付ける対象を明確にして示すような学習活動を工夫しましょう。

○ 単子葉類と双子葉類の葉・茎・根の外部形態と内部形態の特徴を、関連付けて捉える指導の充実

- ・ 身近な植物の外部形態や内部形態の観察を行い、観察記録などに基づき、共通点や相違点があることを見いだして、植物の体の基本的なつくりを理解することが大切です。その際には、花のつくりや葉脈の形状、茎のつくり、根のつくり等の共通点や相違点に基づいた分類表などを作る学習活動を工夫しましょう。

○ 化学変化を質的・実体的な視点で捉える指導の充実

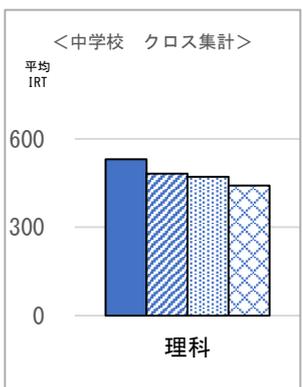
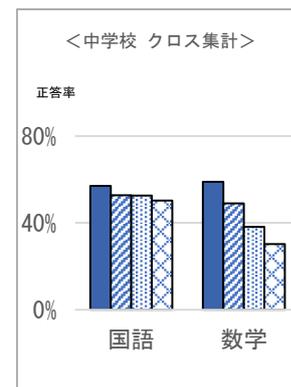
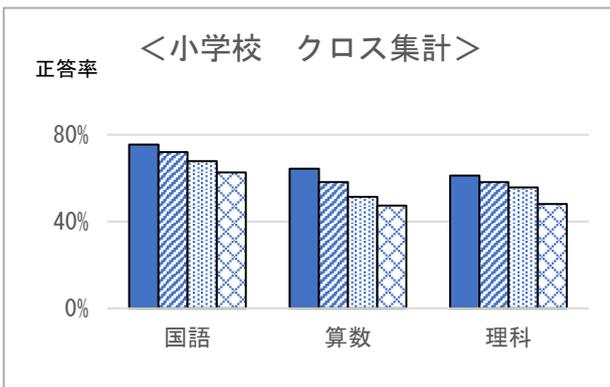
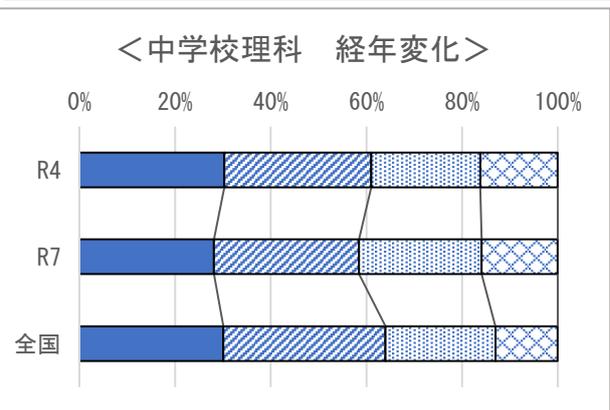
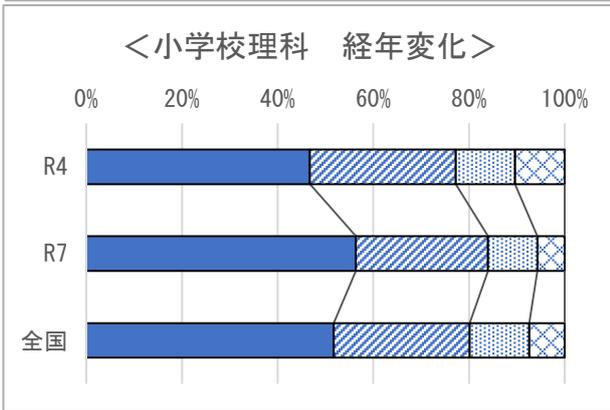
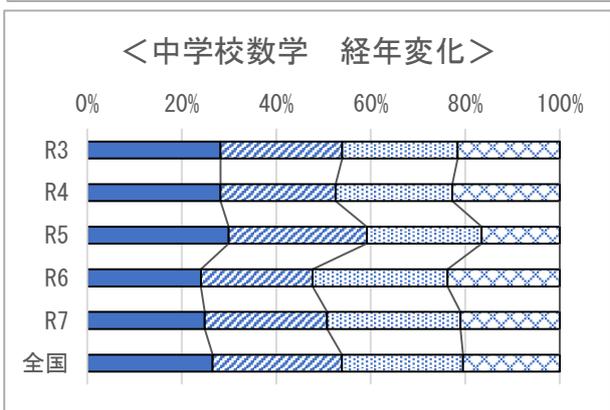
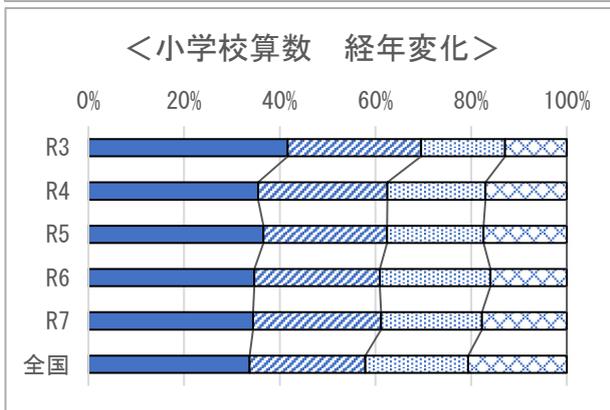
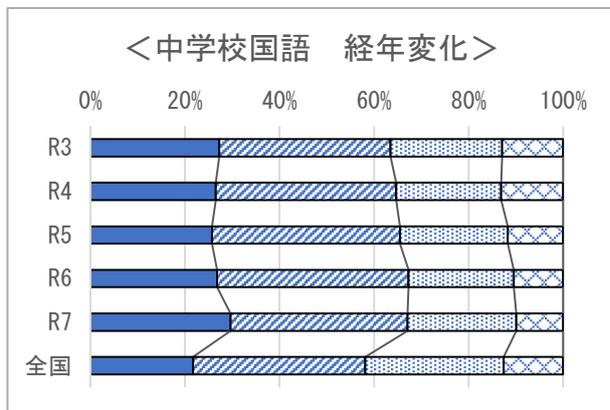
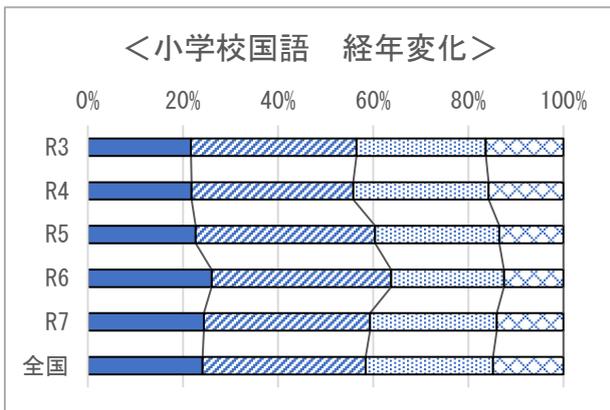
- ・ 化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に事象を捉えるようにすることが大切です。その際には、1人1台端末を使用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるような学習活動を工夫しましょう。

Ⅲ 児童生徒質問調査結果の概要

(1) 学習に対する興味・関心等に関する項目

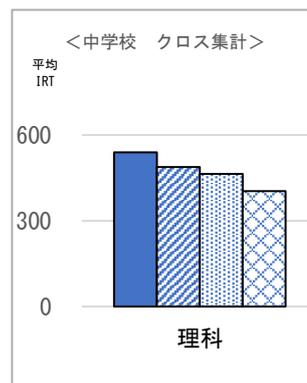
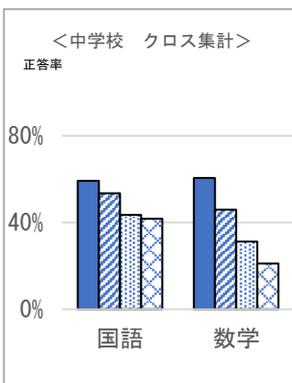
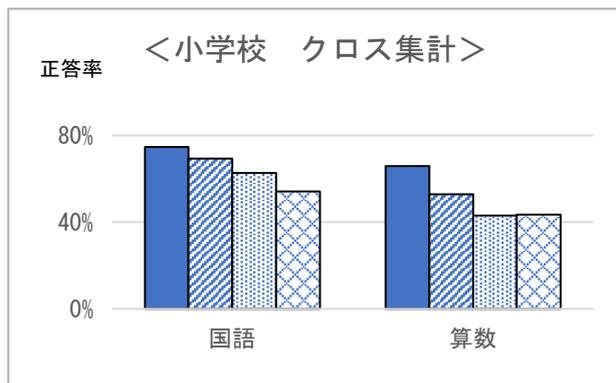
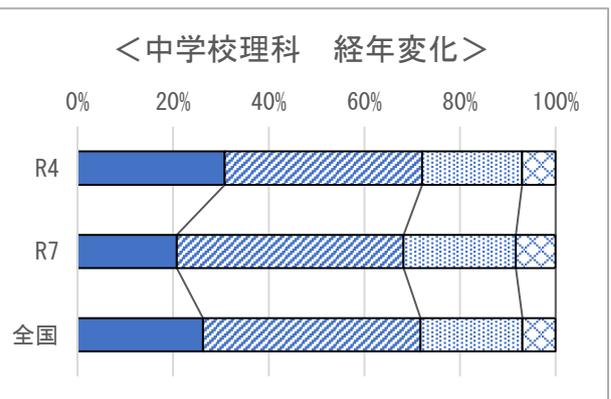
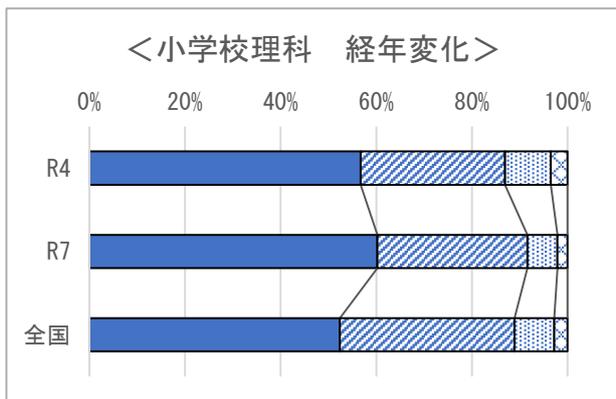
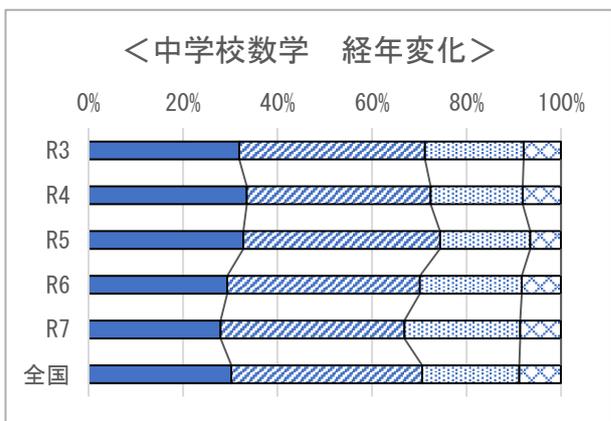
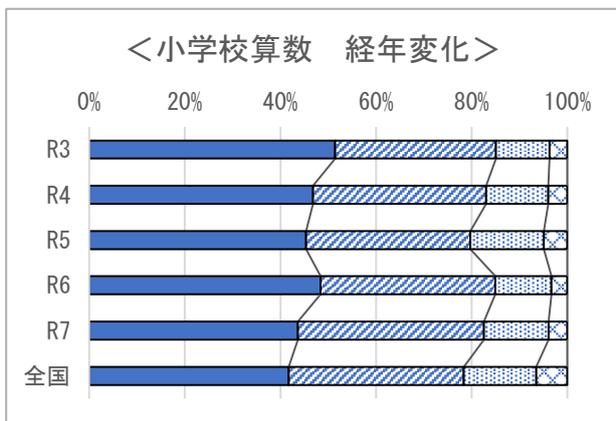
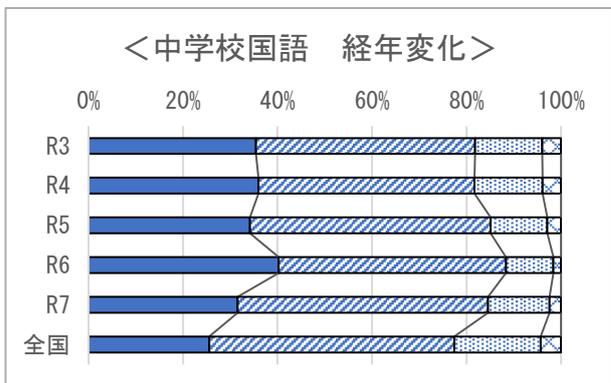
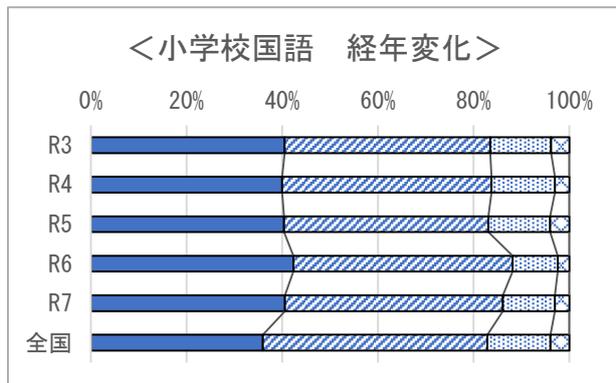
① 「国語，算数・数学，理科の勉強は好き」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



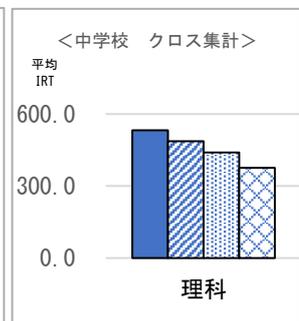
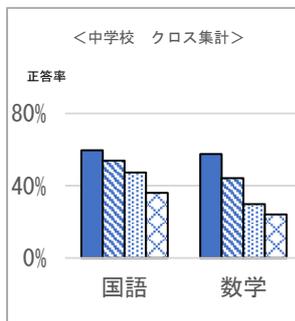
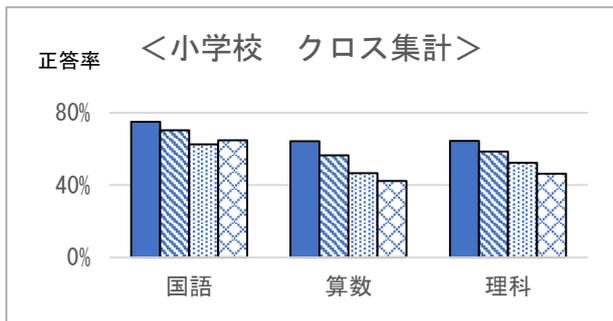
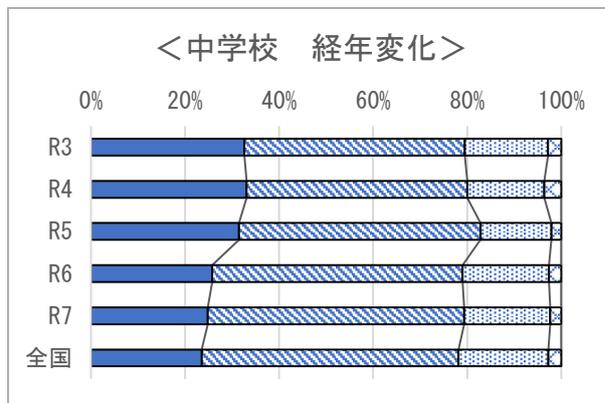
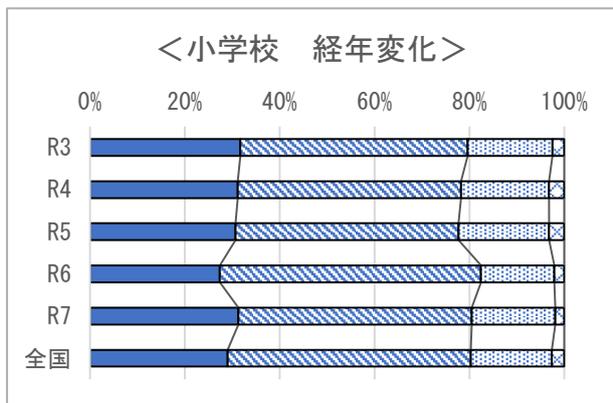
②「国語，算数・数学，理科の授業の内容はよく分かる」

■当てはまる □どちらかといえば，当てはまる □どちらかといえば，当てはまらない □当てはまらない



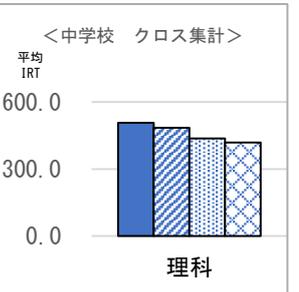
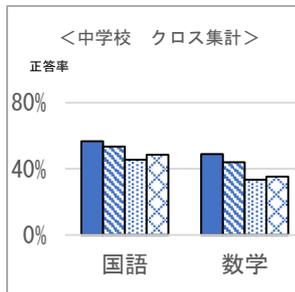
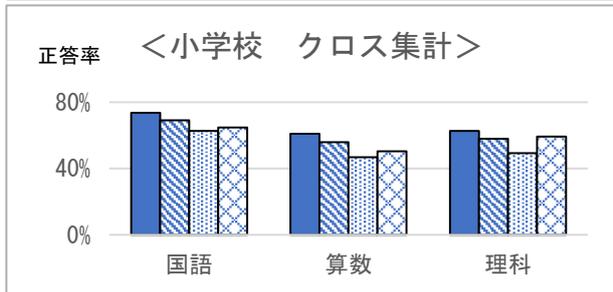
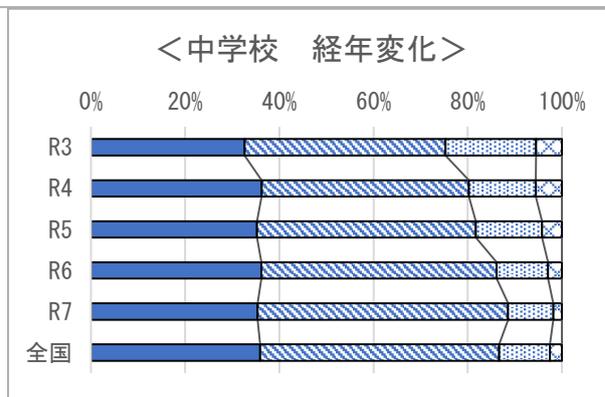
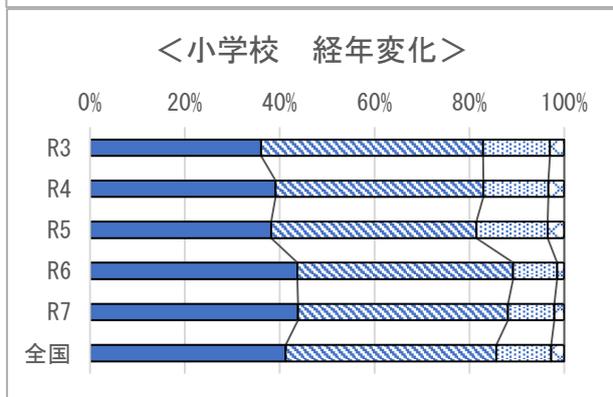
③「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」

■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



④「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていた」

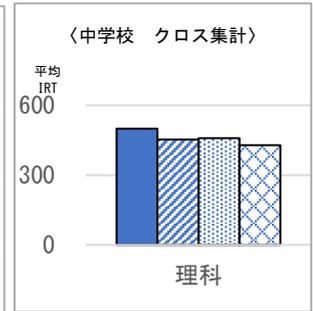
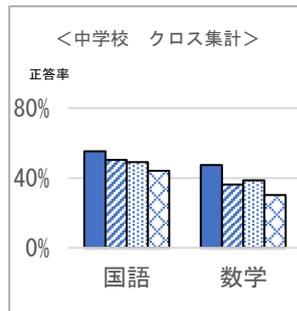
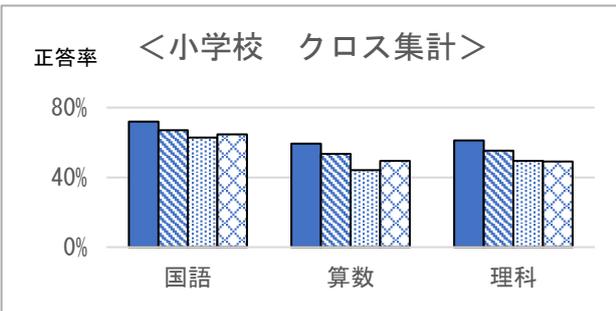
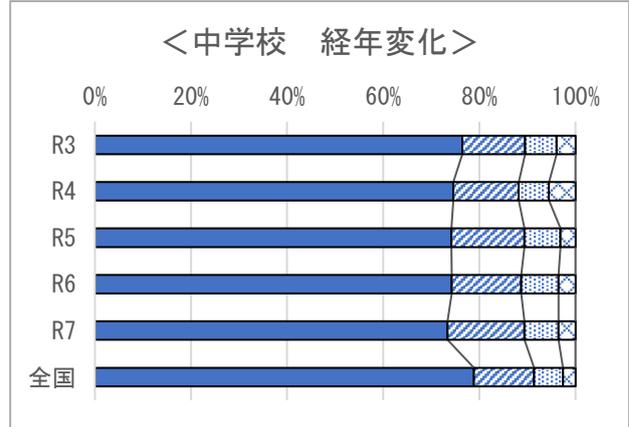
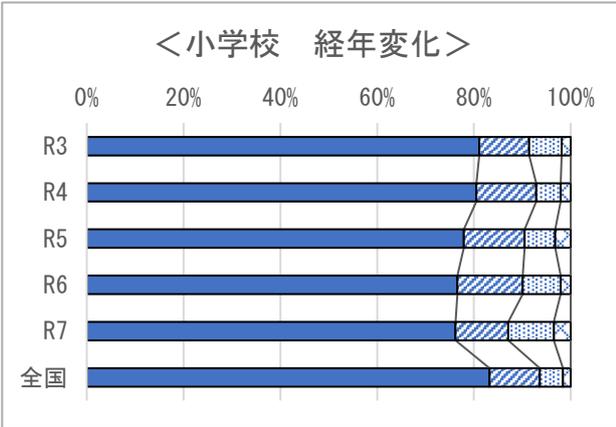
■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



(2) 基本的生活習慣等に関する項目

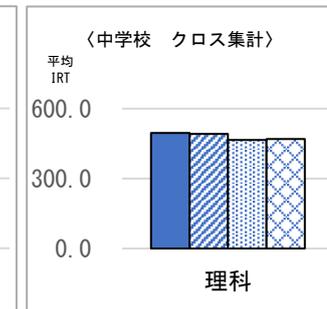
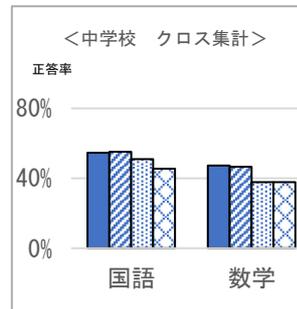
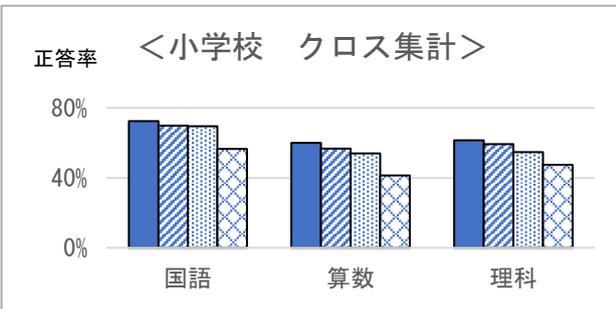
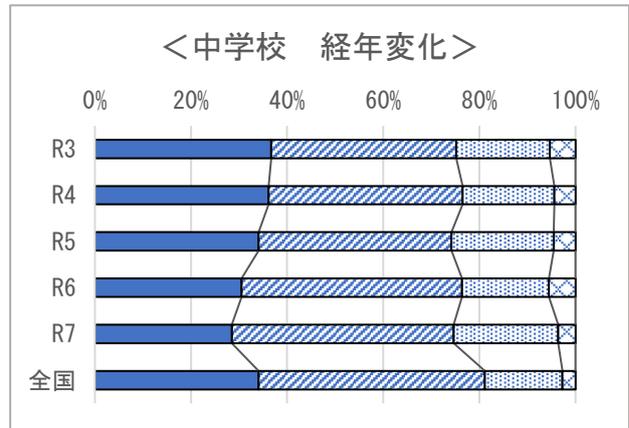
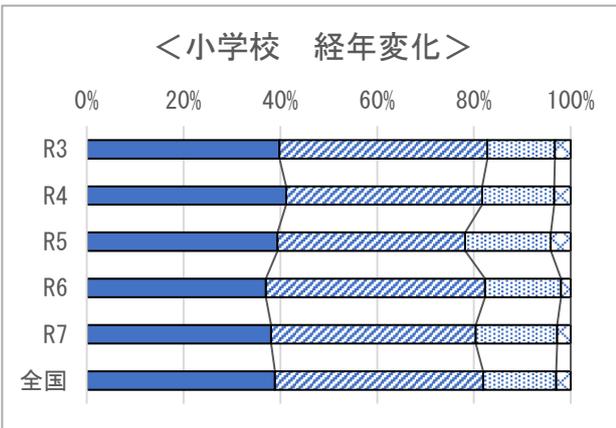
① 「朝食を毎日食べている」

■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない



② 「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」

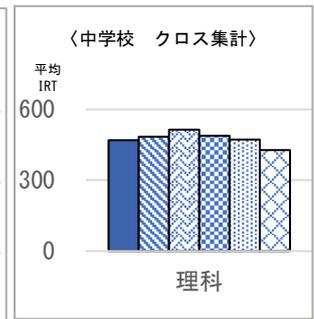
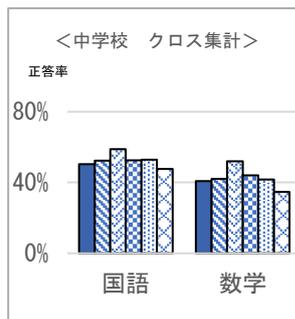
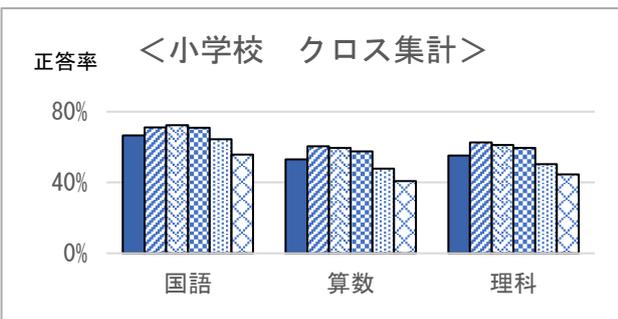
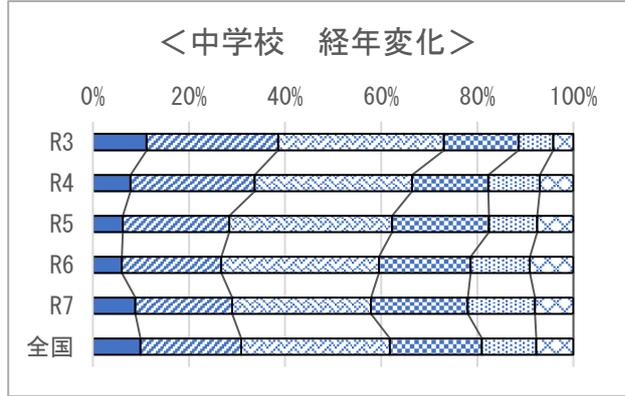
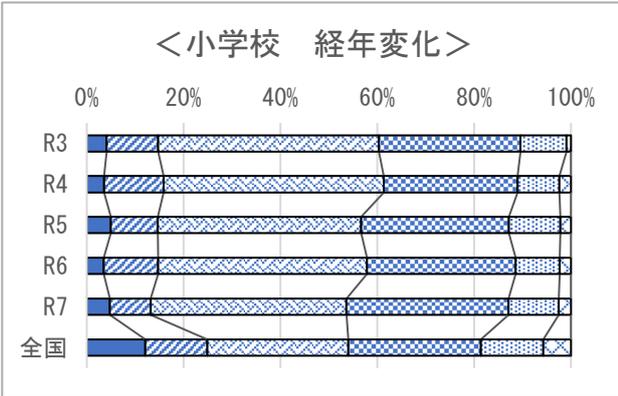
■ している ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない



(3) 学習習慣・学習環境等に関する項目

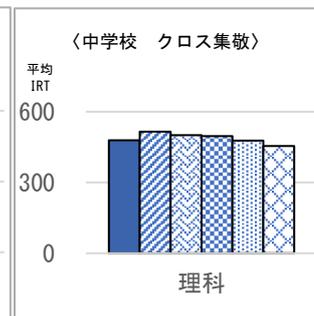
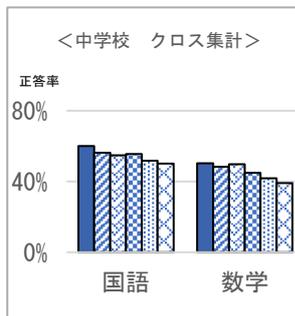
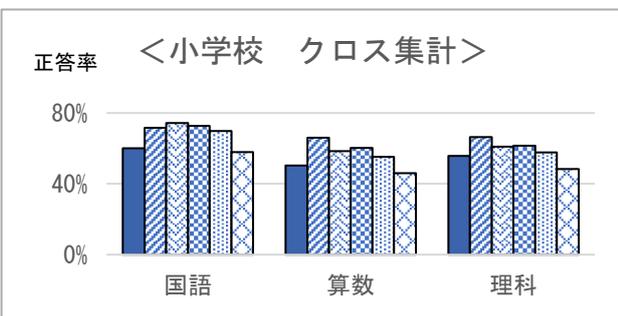
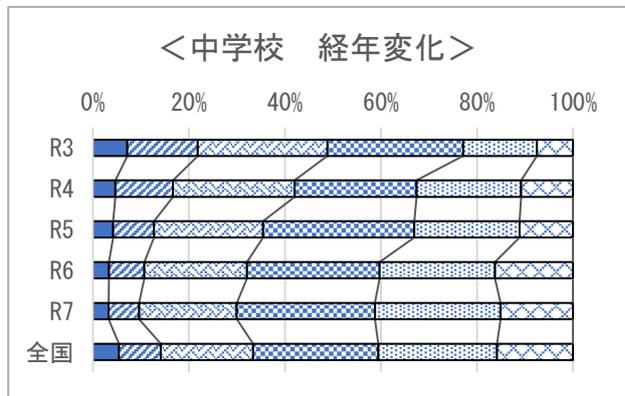
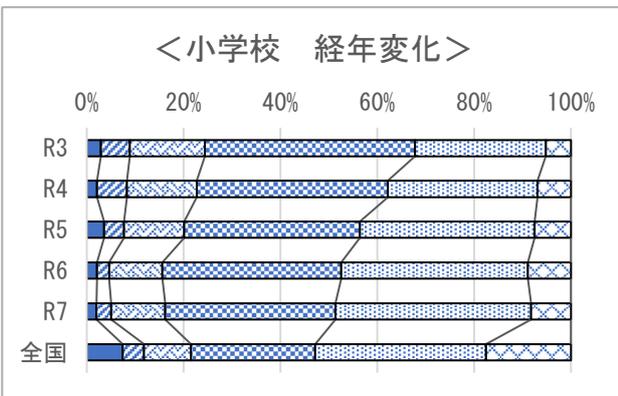
①「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、勉強する1日当たりの時間（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

- 3時間以上
- 2時間以上, 3時間より少ない
- 1時間以上, 2時間より少ない
- 30分以上, 1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない



②「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）」

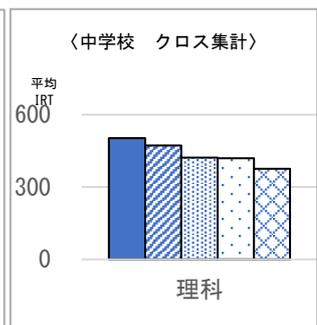
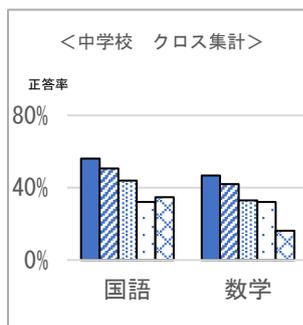
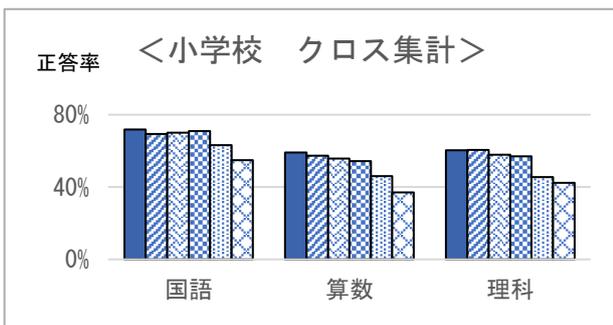
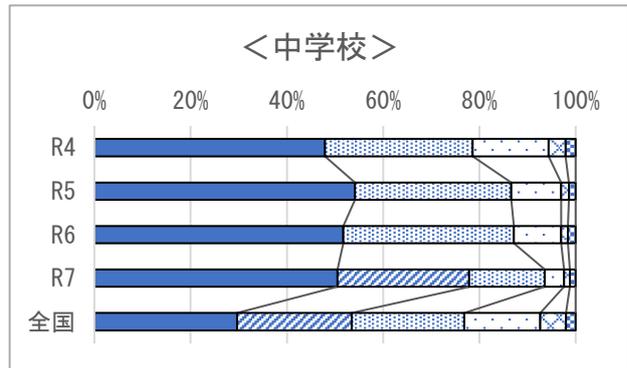
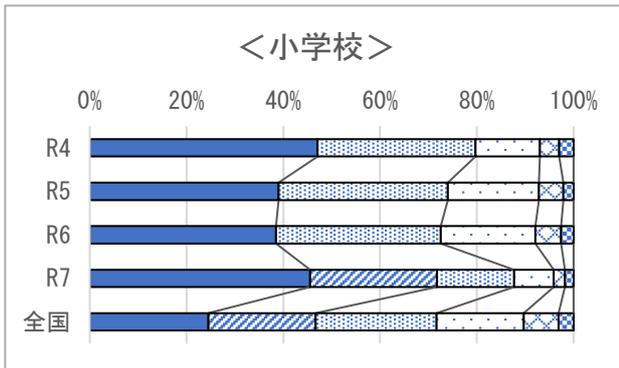
- 4時間以上
- 3時間以上, 4時間より少ない
- 2時間以上, 3時間より少ない
- 1時間以上, 2時間より少ない
- 1時間より少ない
- 全くしない



(4) ICTを活用した学習状況に関する項目 (R4以降)

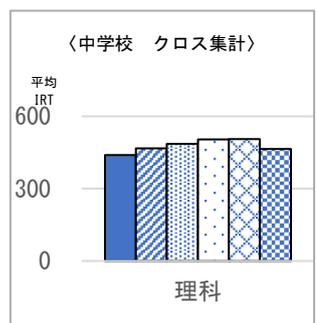
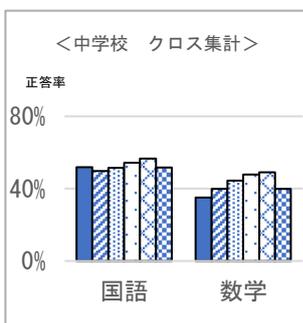
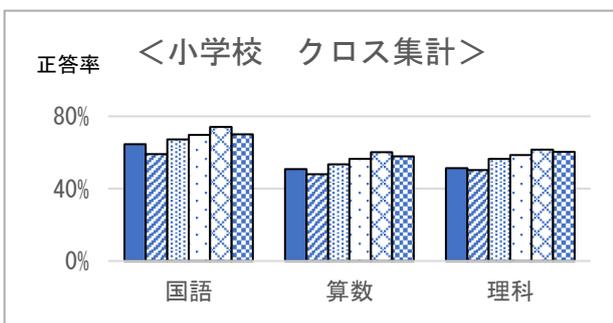
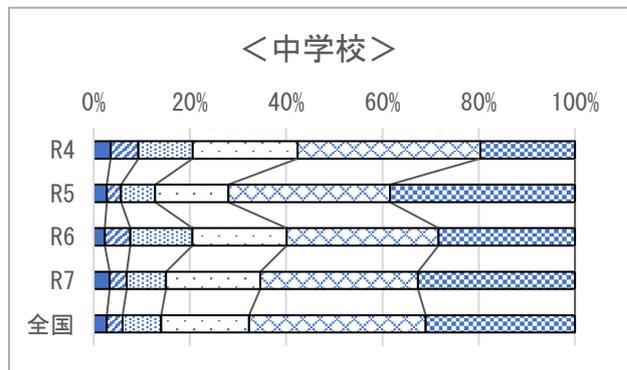
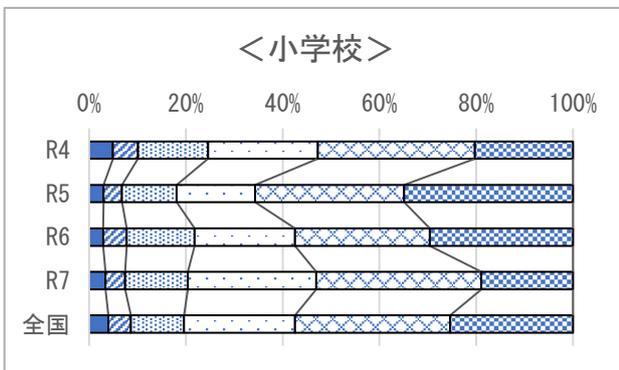
①「前年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」

- ほぼ毎日 (1日1回程度)
- ほぼ毎日 (1日複数回)
- ▨ 週3回以上
- ▨ 週1回以上
- 月1回以上
- 月1回未満



②「学校の授業時間以外に、普段 (月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使う程度 (遊びなどの目的に使う時間は除く)」

- 3時間以上
- ▨ 2時間以上, 3時間より少ない
- ▨ 1時間以上, 2時間より少ない
- 30分以上, 1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全く使っていない

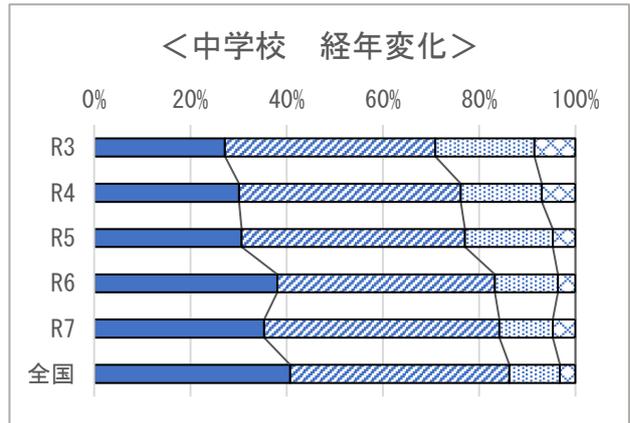
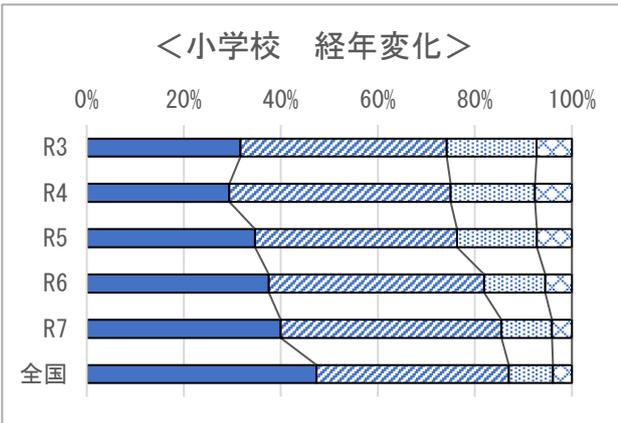


(5) 挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感等に関する項目

① 「自分には、よいところがあると思う」

■ 当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない

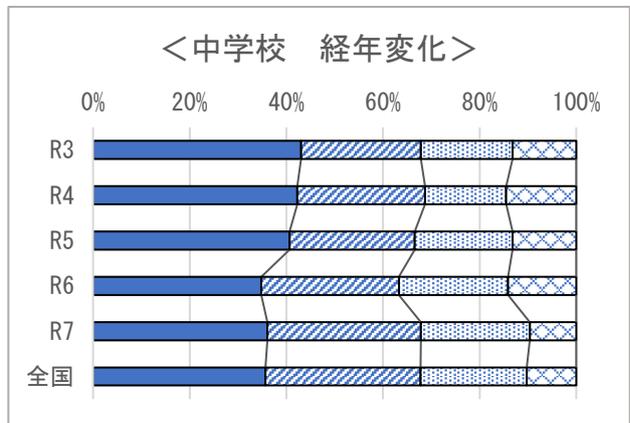
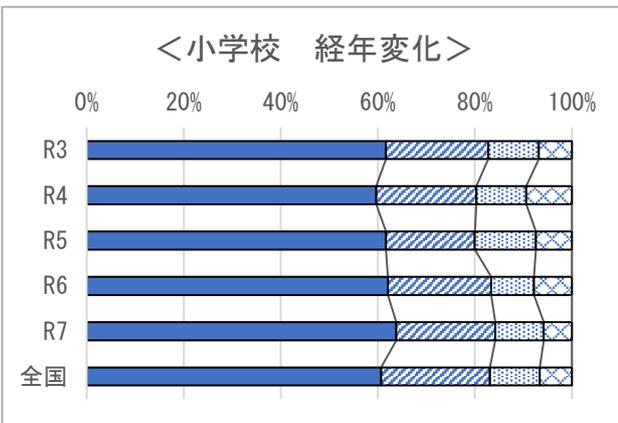
▨ どちらかといえば、当てはまる
 ▩ 当てはまらない



② 「将来の夢や目標を持っている」

■ 当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない

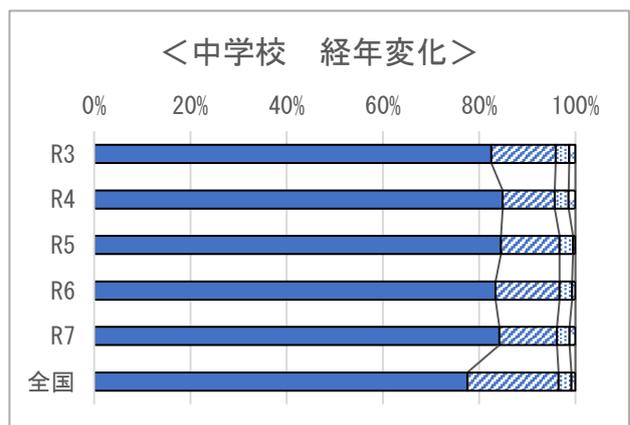
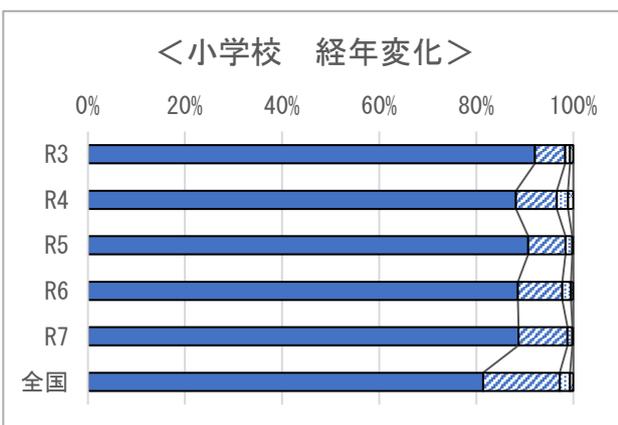
▨ どちらかといえば、当てはまる
 ▩ 当てはまらない



③ 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

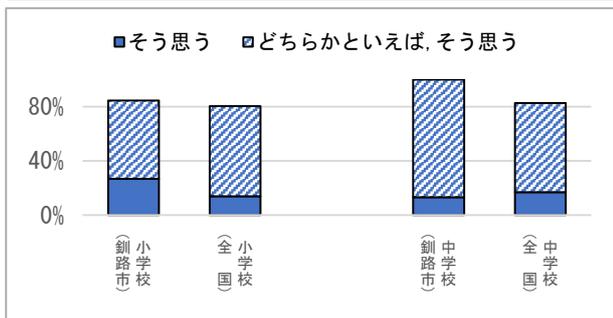
■ 当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない

▨ どちらかといえば、当てはまる
 ▩ 当てはまらない

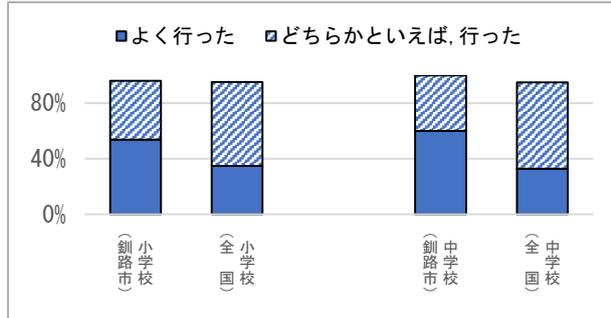


IV 学校質問調査結果の概要

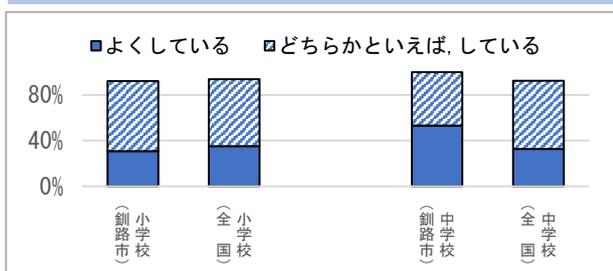
①「授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができる」



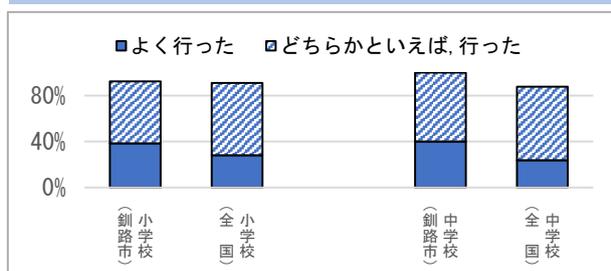
②「学習指導において、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」



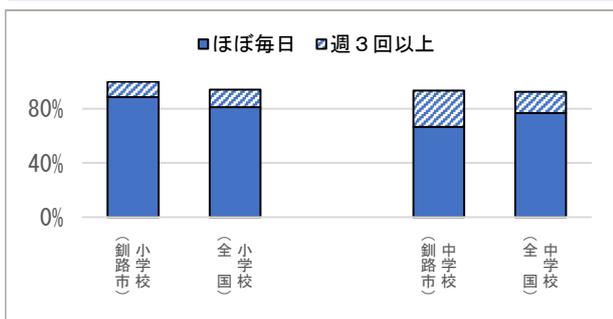
③「学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行った」



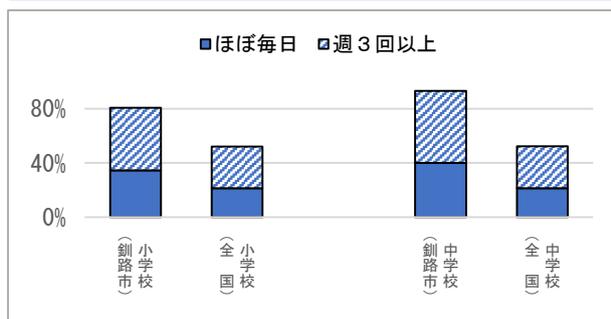
④「学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫した」



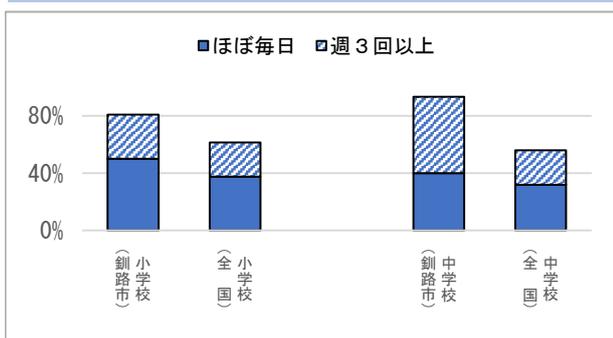
⑤「前年度に、教員が大型提示装置等（プロジェクター、電子黒板等）のICT機器を活用した授業を行った1クラス当たりの程度」



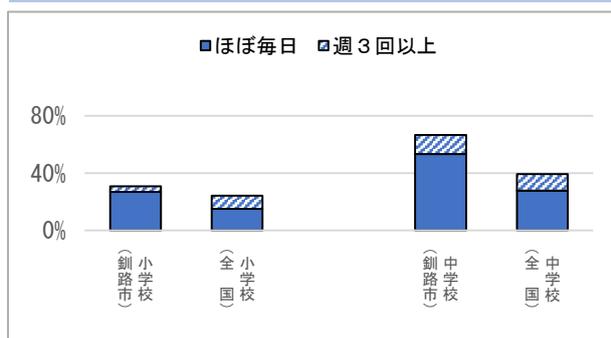
⑥「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」



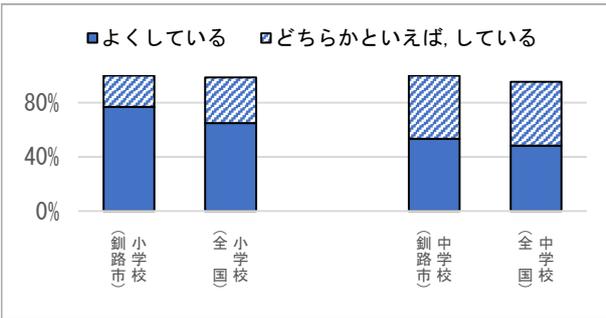
⑦「教職員と児童生徒がやりとりする場面で、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使用した程度」



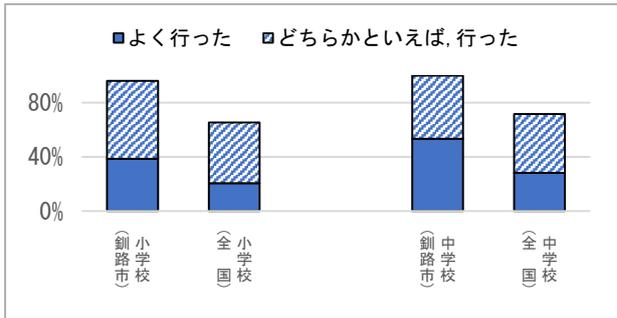
⑧「児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、不登校児童生徒に対する学習活動等の支援に活用した程度」



⑨「授業研究や事例研究等，実践的な研修の実施」



⑩「前年度までに，近隣等の小学校（中学校）との，教科の教育課程の接続や，教科に関する共通の目標設定等，教育課程に関する共通の取組」



V 本市の主な傾向（児童生徒質問調査及び学校質問調査より）

- 「勉強は好きか」の質問について，小学校国語，算数，理科，中学校国語において，肯定的に回答した児童の割合は全国平均（以下，全国）を上回っている。一方，中学校数学，理科において，肯定的に回答した生徒の割合は全国を下回っている。また，肯定的に回答した児童生徒ほど，教科の平均正答率及び平均IRTスコアが高い傾向がみられる。
- 「課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたか」の質問について，小学校，中学校ともに肯定的に回答した児童生徒の割合は全国を上回っている。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができているか」の質問について，小学校，中学校ともに，肯定的に回答した児童生徒の割合は全国を上回っている。
- 「普段（月曜日から金曜日）の学校の授業時間以外に勉強する時間」について，小・中学校ともに「2時間以上」勉強している児童生徒の割合は全国を下回っている。また，中学校において，「30分より少ない」と「全くしない」を合わせた生徒の割合は20%を超えている。
- 「PC・タブレットなどのICT機器を，勉強のために使う程度」について，「ほぼ毎日」または「週3回以上」と回答した児童生徒の割合は，小・中学校ともに全国を上回っている。
- 「自分には，よいところがあると思うか」の質問について，肯定的に回答した児童生徒の割合は全国を下回っているが，経年変化を見ると，小・中学校ともに肯定的に回答する児童生徒の割合は増加傾向にある。
- 学校質問調査における「学習指導において，他者と情報交換して話し合ったり，異なる視点から考えたり，協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫した」の質問について，小・中学校ともに肯定的に回答した学校の割合は全国を上回っている。
- 「ICTを活用した学習状況」について，「自分の考えをまとめ，発表・表現する場面」または，「教職員と児童生徒がやりとりする場面」においてICTを使用する程度は，小・中学校ともに全国よりも高い頻度で活用している。
- 「不登校児童生徒に対する学習活動等の支援」にICTを活用した程度は，小・中学校ともに，全国よりも高い頻度で活用している。
- 「小・中連携」における，授業研究，教科指導，教育課程に関する取組について，小・中学校ともに肯定的に回答した学校の割合は全国を上回っている。

〔釧路市が目指す授業〕

子供たちが主役の 「学ぶ意味と学ぶ楽しさを 感じられる授業」

令和の日本型学校教育

「個別最適な学び」と
「協働的な学び」の
一体的な充実



学習指導要領

主体的・対話的で深い学びを
実現する授業

子供たちが主体的に学ぶ

子供たちが多様な他者と関わりながら学ぶ

子供たちが確かな学力を身に付ける

釧路市が目指す授業



子供たちが主役の 「学ぶ意味と学ぶ楽しさを 感じられる授業」

協力し合い

新たな学びや教材との出会い

相手意識



励まし合い

学び合い



キーワード

認め合い

「あい」あふれる授業の展開



教え合い

助け合い

〇〇愛

話し合い

私(I)は～

相づち
〔なるほど〕等

高め合い

聴き合い